

アジア域内コンテナ指数は2%下落するも前年同期比では39%の上昇

[FreshPlaza 2025年3月14日](#)

ドリュエリー社のアジア域内コンテナ指数 (IACI) は、アジア域内の主要な貿易ルートの実際のスポットコンテナ運賃を追跡している。この指数は隔週で更新され、地域の輸送コストの加重平均を提供し、コンテナ貨物業界における現在の市場動向の全体像を示している。この指数は、個々の航路の運賃を反映する18の航路別指数と、地域全体の包括的な動きを捉える総合指数で構成され、すべての運賃は40フィートコンテナ当たりの米ドルで報告される。

この指数は、アジアの主要港を結ぶ貿易ルートのカバーしている。これには、釜山(韓国)、ホーチミン(ベトナム)、ジャカルタ(インドネシア)、ジャワハルラールネルーポート(インド)、高雄(台湾)及びレムチャバン(タイ)から上海への航路、並びに上海から釜山、ホーチミン、ジャカルタ、ジャワハルラールネルーポート、ジェベルアリ(ドバイ)、高雄、レムチャバン、マニラ(フィリピン)、シンガポール、タンジュンペレパス(マレーシア)への航路が含まれる。さらに、横浜-上海間の航路も含まれている。このように詳細にカバーすることで、この指数はアジア域内のコンテナ輸送市場の動向と運賃を見守る関係者に貴重なベンチマークを提供する。

IACI総合指数は、3月前半に2%下落し、604ドルとなった。アジア内の18の主要貿易ルートのスポート運賃の加重平均であるこの指数は、2024年3月に比べて依然として39%高い。ドリュエリー社は、旧正月の休暇後に輸送時間が改善し、物流業務が通常に戻ったため、今後数週間で運賃が安定すると予想している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

フィリピン パイナップル輸出額が7.5%増加

[FreshPlaza 2025年3月18日](#)

フィリピン統計局 (PSA) は、フィリピンの昨年のパイナップル輸出額が約7億8,712万ドルに達し、7.5%増加したと報告した。生鮮または乾燥したパイナップルの輸出額は合計4億2,874万ドルで、パイナップル総輸出額の半分以上を占めた。中国が最大の輸出先であり、2023年より18%多い1億8,343万ドル相当のパイナップルを輸入した。

PSAのデータによると、フィリピンは昨年、合計67万5,540トンの生鮮または乾燥したパイナップルを輸出し、中国は42%に当たる約28万2,460トンを入力した。フィリピンは依然として中国向けパイナップルの最大の供給国であり、過去20年にわたり中国の年間輸入量の90%を占めている。(一部の文の順序を変更しました。)

国連食糧農業機関 (FAO) は、2024年のフィリピンのパイナップル輸出の増加は、プレミアムパイナップル、特にMD2品種の需要に牽引されたものと見ており、「フィリピンで栽培されている主要品種であるMD2パイナップルの長い貯蔵寿命、年間を通じた生産サイクル、魅力的な品質的コストパフォーマンスが、特に強力なセールスポイントであることが証明された」と強調した。

世界的には、フィリピンはコスタリカに次いで第2位のパイナップル輸出国にランクされている。業界の専門家達は、パイナップルがフィリピンの次の10億ドルの輸出品になると予測している。経済協力開発機構 (OECD) とFAOは、2033年までにフィリピンで生産されるパイナップルの4分の1が輸出されるようになると予測している。

調製または保存処理されたパイナップルの輸出額は2%増の2億2,049万ドルであり、非発酵のパイナップル果汁の輸出額は35%増の1億1,680万ドルであった。しかし、ブリックス値が20を超えないパイナップル果汁の輸出額は3,621万ドルに減少した。

出典: [Philstar Global](#)